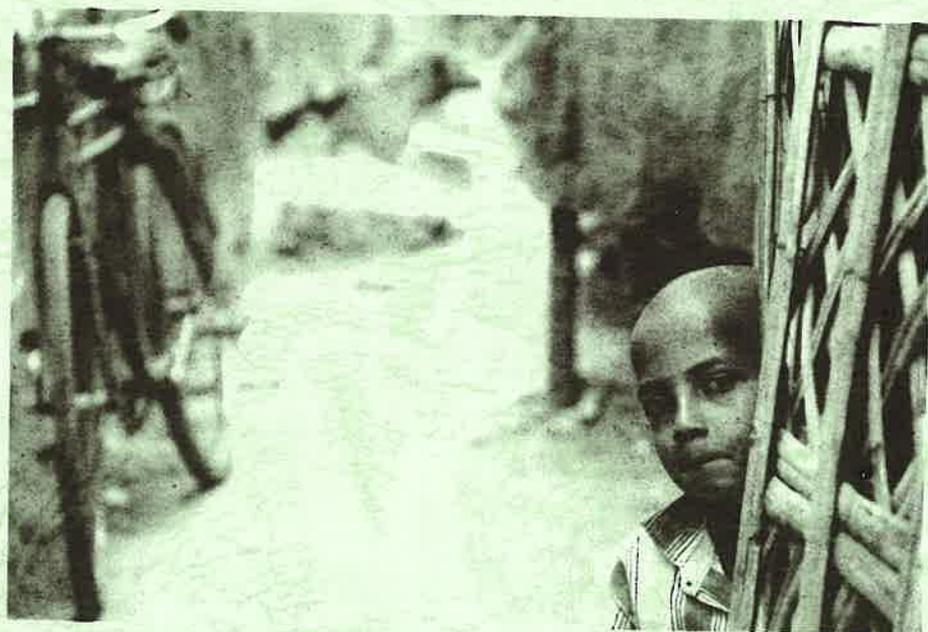


ACEF スタディツアー 第36回

2009年3月9日～3月19日



あなたのパンを水の上に投げよ。

多くの日の後、あなたはそれを得るからである。

伝道の書 11:1

第36回
ACEF STUDY TOUR 報告書

○ ●目次● ○

1.はじめに

2.バングラデシュについて

3.メンバー紹介

4.BDP スタッフ紹介

5.日程表

6.メンバーの感想文

はじめに

◆ACEF と BDP◆

1971年に独立したバングラデシュはアジアの発展途上国の1つですが現在、国を挙げて新しい国造りに励んでいます。しかし、識字率は未だ低く、政府の統計においても49%です。新しい国造りに「教育」が欠かせないものであることは、言うまでもありません。

明治初期、アメリカからの宣教師が、日本の教育(特に女子教育)を始め日本の近代化に大きく貢献したように、今、バングラデシュで最も必要なことは初等(基礎)教育です。

1990年5月ミナ・マラカール女史は、バングラデシュの首都ダッカ郊外において、初等教育に取り組むキリスト教系NGO「サンフラワー教育計画=SEP(現BDP)」を創立しました。このマラカール女史の呼びかけに応じて、アジアキリスト教教育基金(ACEF=エイセフ)は、バングラデシュの子どもたちに「寺子屋を贈ろう」と1990年10月に発足しました。

<ACEFのHPより>



ACEFとBDPは支援する側と支援される側の関係ではなく、

「共働」するパートナーとして活動しています!!

◆スタディーツアー◆

ACEFスタディーツアーの特徴は、学生が中心ですが、様々な年齢層も加わり、朝夕の礼拝、そして子どもたちなどと遊び、夕礼拝の後でシェアリング(その日にあった事を共に話し合う)をすることです。日本における日常生活では、立ち止まってじっくりと「人生の意味や目的」を先輩の方々と交えて語り合う事など稀ですが、激動のバングラデシュにあつて、静かに聖書



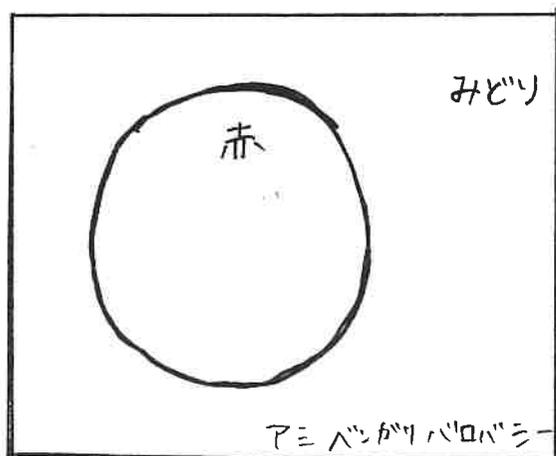
からの語りかけに耳を傾けながら、語り合い、祈り合いつつ、自らの生き方に思いを馳せる毎日です。本当にすばらしい事です。みなさん、アジアでの“生”を体験し、21世紀での私たちの生き方をもう一度考えてみませんか。ぜひ、スタディーツアーにご参加ください。

<ACEFのHPより

隅谷 三喜男 氏>

バングラデシュ 概要

国名	バングラデシュ人民共和国 The People's Republic of Bangladesh
首都	ダッカ Dhaka
面積	147,000km 日本約の約5分の2、北海道の約2倍
独立年月	1947年8月14日 パキスタンの一部(東パキスタン)として、英国より独立 1971年12月16日 バングラデシュとして独立
境界	北:インド、西:インド、東:インド・ミャンマー
宗教	イスラム教(88.3%)、ヒンズー教(10.5%)、仏教(0.6%)、キリスト教(0.3%)
通貨	タカ Taka
時差	日本との時差は-3時間
人口	1億5354万人(2008年7月)
言語	公用語はベンガル語。教育を受けた層は英語も話せる場合が多い。
平均寿命	62.84歳



【バングラデシュの国旗】

バングラデシュの国旗は緑を下地に赤の円が描かれており、日本の国旗と似ています。下地の緑は豊かな大地を、赤い円は昇りゆく太陽と、独立戦争で亡くなった人の血を表しているそうです。バングラデシュは独立してまだ30年余りということもあつてか、愛国心の強い方が多いように思われました。

【バングラデシュの気候】

典型的な亜熱帯モンスーン気候です。南西モンスーンの吹く6~10月が高温多湿の雨季で、スコールとサイクロンが襲来し、国土の半分近くが水没することもあります。最近では2007年11月に大型サイクロンが襲来し、南部沿岸部を中心に死者・行方不明者4000人以上、被災者890万人以上という大きな被害が生じました。世界有数の多雨地帯で、北東モンスーンの吹く1~2月は乾燥します。

【バングラデシュの産業】

農業国で米とジュートが基盤で、ほかに茶、サトウキビの栽培とエビの養殖がおこなわれています。工業はジュート加工、皮革、縫製などの軽工業がおこなわれています。世界4位の米生産国ですが、生産効率が低い上、人口過剰と水害のため食糧を輸入しています。デルタ地帯という地理的条件もあり、インフラ整備の遅れが経済発展の障害になっているようです。海外への出稼ぎと援助に大きく依存しているのが現状です。

【バングラデシュの教育】

バングラデシュでは初等教育の5年間（5～9歳）が義務教育となっていますが、公立の学校では毎年行われる学年末試験に合格しないと進級できず、また、その試験費用も含め、学習用具は自己負担なので、中退してしまう生徒が多いのが現状です。教育の質の面でも、生徒の理解度の低さなどまだまだ課題が多いようです。

☆食事☆

スタディツアー中は、私たちもベンガルの方と同じように、右手を使って頂きました！

皆さん、手をスプーンのようにして、とっても器用に召し上がるので感動します☆

◎カレー

もちろん、ベンガル料理はカレーぬきには語れません！毎日必ず、カレーが出ますが、野菜カレー、魚カレー、お肉のカレーなど、種類はとっても豊富です。私たちの中で人気が高かったのは、ナマズのカレーと、揚げ玉子（？）のカレーでした。また、カレーにもよく入っていましたが、バングラデシュのジャガイモは本当に美味しいです！病みつきになります☆

◎ルティ

カレーと一緒に頂く、ナンを小さく薄くしたようなパンで、朝食によく頂きました。本当に美味しく、誰かに止められないと、食べ続けます。

◎果物

ごはんの後のデザートによく頂きました。パパイヤ、スイカ、ぶどう、りんご、バナナがよく出ました。バナナは色々な種類があって、食べ方もたくさんあります。バナナの皮を使ったスパイシーな料理も頂きました。個人的な感想としては、ボクシガンジのバナナを超えるバナナはこの世にないでしょう。夏はマンゴーも美味しいそうです！

◎チャー

ベンガルティーはとっても美味しく、一日に何杯も頂きました。ミルク・砂糖を入れて甘くすることが多いようです。Hotで頂きますが、暑い国なのに煩わしくないのが不思議です。一日の締めくくりに「シェアリング」をしている際に頂く一杯は格別です☆

☆衣服☆

◎サロワ・カミューズ

バングラデシュの未婚女性が着る衣装で、元々はインド・パンジャブ地方の伝統衣装だそうです。紐で調節するゆったりしたズボンのサロワ、膝くらいまであるワンピースのようなカミューズ、胸を隠すためのスカーフのオロナを身につけます。私たちは到着した次の日にデパートまで買いに行きましたが、数えきれないほどの色・柄があり、どれも綺麗でうっとりしてしまいます。おかげでデパートでは男性陣を相当待たせました。(笑)
ベンガル人はお酒落です！

◎サリー

既婚女性が着用します。小さなTシャツのようなものとペチコートの上に、細長い一枚の布を体に巻きつけて着用します。とってもゴージャスです☆
私たちも今回、BDPの先生方に着せて頂きました！ベンガル風に化粧もして頂きましたが、私はデーモン小暮のようになってしまいました。(笑)

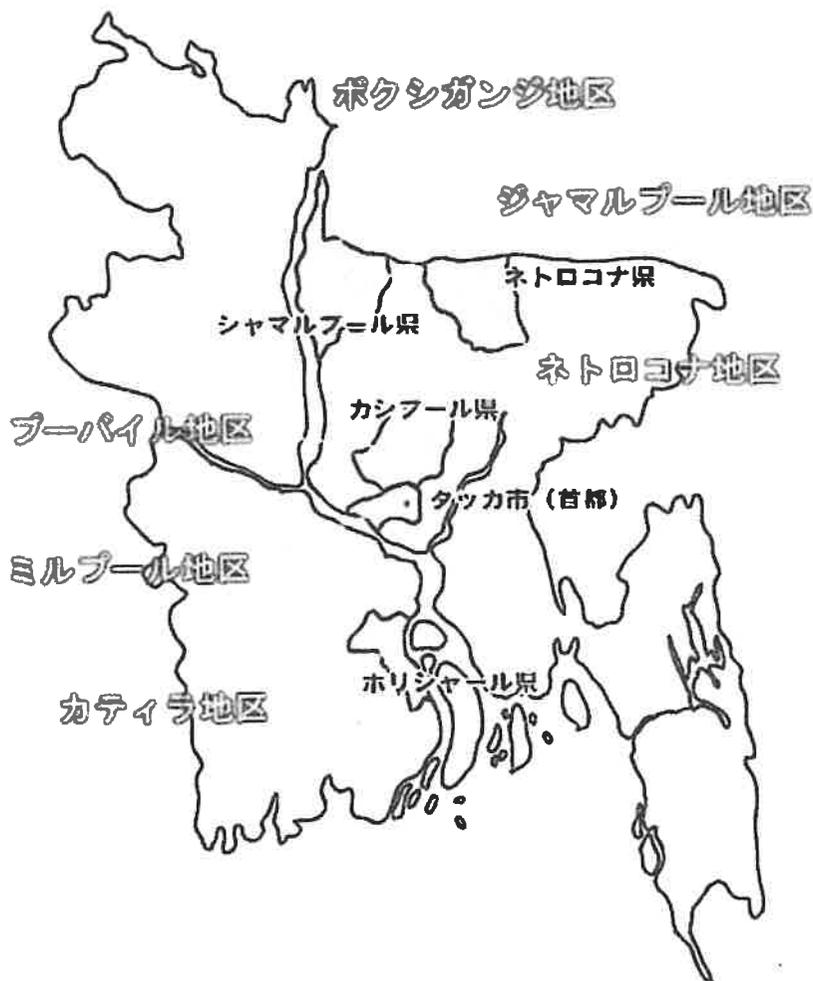
◎ルンギ

男性用の衣装としては、ルンギという部屋着があります。ズボン代わりに巻きスカートのようなもので、下着を履かずに着用するようです。馴れないと落ちやすらしく、スタディツアーのメンバーは朝のラジオ体操中にアクシデントがありました。(笑)
外では、シャツにズボンを着ている男性が多かったです。

◎メンディ

これは衣装ではありませんが、ヘナという植物染料で手に描くアートです。手のひらに絵を描くことで、運気を招くと考えられているようで、とても細かい模様を描きます。洗っても1ヶ月ほど持続します。BDPの先生の一人である、ルナさんがメンディ描きの名人だったので、私たちはみんな手に模様を描いて頂きました。1ヶ月持続する&説明しないと日本では刺青と間違えられる可能性があるので、描いて頂く前に、帰国後のアルバイト等に支障が出ないか考えた方が良くかもしれません。でも、とおおおっても素敵ですよ☆

バングラデシュ MAP



BDP の各地における活動状況

ジャマルプール県	ボクシガンジ地区：	生徒数	1049 名
ジャマルプール県	ジャマルプール地区：	生徒数	3722 名
ボルシャール県	カティラ地区：	生徒数	2809 名
ネトロコナ県	ネトロコナ地区：	生徒数	1148 名
ガジプール県	プーバイル地区：	生徒数	2012 名
ダッカ市	ミルプール地区：	生徒数	1588 名



Hideaki Nakagawa

中川さん (ACEF 事務局長)

われらがオールマイティーボス、中川さん!
常に的確なアドバイスを与えてくれる凄いお方。
さらには、ハーモニカ、けん玉、ギターなどを
さりりとこなす兄貴分。時々お茶目な一面も。
写真は「森のくまさん」になる中川さん。

ACEF 36 Study Tour

メンバー紹介

Noriko Inoue

儀子さん (ACEF スタッフ)

ベンガル語なら儀子さんにおまかせ!!
高度なジョークが連発で、最後はつられて皆も
ジョーク連発。バングラデシュにかける熱い思い
は誰にも負けません。いつも笑顔で、私たちの
話を聞いてくれる STのお母さんの存在。

オルナーを
折る+5-!!





バロバシー、
ゴボール!!!

Kaoru Ishibashi

石橋 薫 (かおるくん)

子ども大好きな未来の小学校教師。
時々われらのカウンセラーになって
くれるものの、その正直な発言のために
時々クリティカル・ヒットを放つことも。
心優しく、力持ち。ST1のムードメーカー!

Shunichi Ueno

上野 峻一 (峻ちゃん)

熱い心をもった多彩なパフォーマー。
ダッカ空港の職員をけん玉で魅了した猛者。
ハーモニカやロボットダンスなど、隠し持つ
芸は数知れず。皆をまとめる良きリーダー、
そしてノリノリの未来のパスター!



イミバシ

バロバシ〜♡



Miyuki Nozu

野津 美由紀 (みゆき)

コラ畑に放置されそうになるバナナ大好き娘。
 素敵な笑顔はベンガリ顔負け!!サリー姿は
 「シュンドリー」!モシヤ(蚊)との奮闘を繰り返し
 つつ、シェアリングでは知性あふれるコメント
 で考えるきっかけを提供してくれました。

ルティ、コラ、ワブモシヤ ~ ♡

Kaori Tohe

戸部 佳織 (かおり)

おしゃべり大好き、子ども大好き!

さらには皆が辛すぎて食べられなかった
 カチャモリス(青唐辛子)も大好き!!なかおり。
 手が器用で折り紙の優しき先生でもあります。
 ベンガリに折り紙ブームを巻き起こしたつわもの。

アミ カチャモリス
 ポッシュドコリー ♪
 ども
 フョット シャール...





Toshiko Fujimoto

藤本 淑子 (としこ)

ダンスでバングラに突撃するうっかり者。
 食べること大好き、白米大好き!!バングラの
 水に馴染みすぎ、日本の水でおなかを壊す。
 ノンバーバルコミュニケーションでベンガリと
 コミュニケーションを図る!

バットデザイン～!!

ちなみに

この自己紹介で使用した模様は、
 BDPの職業訓練学校の先生、Runaさん
 がプレゼントしてくれた彼女のデザイン画を
 参考に、色々アレンジした「Mehndi (メンドイ)」
 の模様です。皆さんもアレンジしてみてもいいかな?

メンドイを描いている
 Runaさん ↓
 オシヤレ!!



BDP STAFF

Dhaka

Albertさん

信仰と
希望と愛をもつ
2-モア作ってる。
BDPの
Boss



Dikoさん

ちよと悪だけど、
いつもたよれる
兄貴的存在☆



日本とバングラは愛ある☆
Hemantaさん



笑顔のスター
バングラのマネージャー

Farukさん

BDPのイクメン!?!
経理担当。
交渉術は
ピカイチ☆



Shoncchoyさん

バングラのドライバー
Nikhilさんより
でもやっぱり笑

Asimさん

Ambrossさん

バングラの総務担当。
クールで優しい☆



Nikhilさん

心優しく持ち運転テクス
バングラ☆

Boxiganj



静かに
優しい☆

Farhadさん

バングラの顔とstaff
の顔。具合十分
うざってる☆

Samiulさん



Masudさん

全休も出来る
優しいけど
機転をきかせ
一歩先読み!!



Pubail



Prokashさん

好奇心旺盛なお兄さん☆



Rahajさん

ちよとこやいな
スーパードクター☆

Amalさん

子どもはぎょっくり!!
日本語も愛する
スーパーバスター



Aliさん

奥にダンサーで!
いつもお世話
してくれて
アリゴト



Runaさん

20才とは思え
ない美人で
おろついた
お姉さん



取っ組み合いが得意
なワコ、
思っちゃってます!!

Louchonさん



Jamalpur

Muklesさん

いつも優しい
眼差し、
スマイルの
パワー!!



Basedさん

歌うとマジい
優しいマジシャン☆



Hobiさん

静かにみんなを見守り、
たよりになる人☆



Motalebさん

いつもめていてくれる
安心感のあふるお兄さん☆

☆ - BDPスタッフの紹介をしてくれてありがとうございました -

今さらだけど、 自己紹介☆

NAME: 佳織 こんな子です

性格: 人見知り
しない。

Kirdi...

frog. 本当にムリ...
これにつきます。

本当にみんな
ありがとう!!

I love u♡
I love
Bangladesh



子どもたちは「ヨヒ」が大好き♡

☆ (のつとの出会いも
(笑)
あと、よく泣く。
よく笑う。

Suki...

子ども

梅

甘いもの

空

おあけまとおちつく。

メシャ猫、アリス かわいくないのが♡

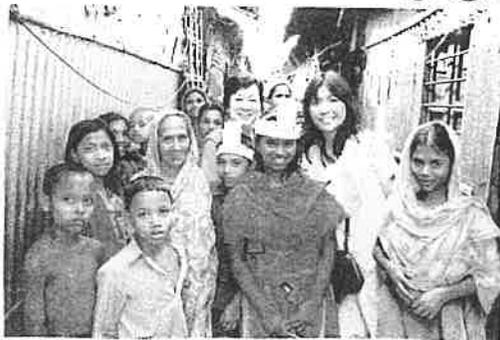
音楽、Rock!! ドラムの音♡

ドラムの音、マチ(love♡)

ミニシアター系映画

よくみよよ♡ 岩波Hallとか。

人が大好きです♡
出会って本当に
おくりものだと
思うよ!!♡



海貝と two shot♡

第36回 (2009年春)

ACEFスタディツアー日程表

3月09日(月)

<成田から香港経由でダッカへ、プーバイルには夜中に到着>

3月10日(火)

<開会礼拝とオリエンテーション、午後は買い物のため街へ>

3月11日(水)

<BDP学校を見てジャマルプールへ移動、到着後村を散策>

3月12日(木)

<午前・午後と三つのBDP学校を見学して子どもと遊ぶ>

3月13日(金)

<ボートに乗り、ホビ家で食事をし、伝統衣装・装飾を体験>

3月14日(土)

<ボクシガンジーへ、二つのBDP学校を見学し国境線へ>

3月15日(日)

<ガロ族の教会で礼拝し学校を見学して、ジャマルプールへ>

3月16日(月)

<ジャマルプールからプーバイルに戻り、メンディを体験>

3月17日(火)

<BDP学校とBDPオフィス建設地へ、カルチャーショー>

3月18日(水)

<買い物後、閉会礼拝・最後のシェアリング、ダッカ空港へ>

3月19日(木)

<深夜にダッカを出発し、香港経由で成田に昼過ぎに到着>



1日目…3月9日(月)～出発～

日程表

- 14:30 集合
- 16:20 成田空港(発)
- 20:40 香港(着)
- 22:35 香港(発)
- ～10日～
- 01:00 ダッカ(着)
- 02:00 プーバイル事務所到着
- 03:30 就寝

成田空港



飛行機内では話したり機内食



を食べたり楽しく過ごしました。

香港経由



ダッカ空港着



移動に約9時間。
ちよと疲れが見えます

トランジットの待ち時間に
カルチャーショーの巻の
ソ・ラン節の練習

プーバイル到着後
スタッフを紹介してもらい、
みんながチャイとバナナを
いただきました



この後
就寝…。



4日目…3月12日(木)～3つの学校～

内容は覚えてないけど子どもが面白い事言ってる感じがします。

日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝祷(TOSHIKO)
- 08:00 朝食
- 10:00 BDP スクール訪問①
- 11:00 BDP スクール訪問②
- 13:00 昼食
- 16:00 BDP スクール訪問③
- 20:00 夕食
- 21:00 夕祷(KAORI)
- 21:30 シェアリング
- 23:00 就寝



←この体操のときに順番にランギが落ちました。(恥)

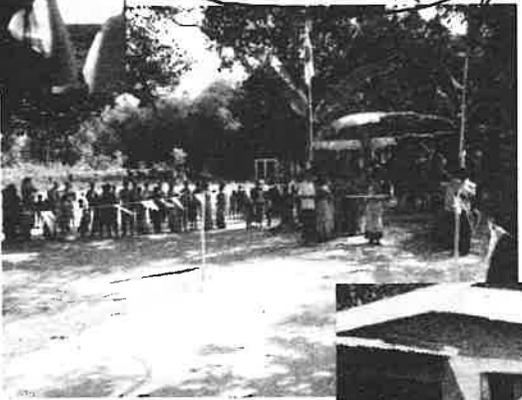
向こうで感じた物とくりにした時間の流れは、食後のこういう時間がある、たかひかもしません。



この学校ではすごい歓迎をうけました。花を投げつけられたりかけられたり。



カオリはまだ元気。



校庭も広く、男の子はボール遊び、女の子は踊ったり歌ったりシャボン玉したりして遊んでるようです。

この学校の先生達。この規模を4人で



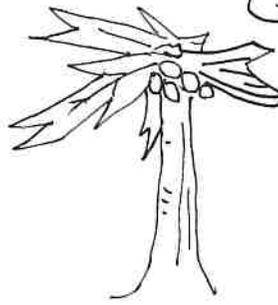
カオリの先生達。



これは授業中ですよ。すていしよう。



子ども達の真剣さを印象的でした。



この日2校目の学校では
午後の授業を受けに来た
子全員が校庭に出て
校歌・国歌を歌ってく
れました。
なまり歌詞は覚えて
いながらたけれど、
元気のいい歌声を
聴かせてくれました。

3校目、ライオンくんが鎮魂歌を
独唱してくれました！おぼしげがた！



学校のリノムネを上手に
歌った。

よく見て下さい
この学校は台風被害を
受け、壁がないんです。

このBOP
スクールの先生
に男の先生が
いて、僕らが
来たことをすごく
感謝してくれました。
僕も感動しました。

この日の夕日が
すごくキレイで
みんなで
写真撮った
んです。
ジュニアは
子どもと
遊んでました。
すてい。



今日は
学校は
お休み!!

5日目...3月13日(金)~安息日~

みんなの
のんびり
休日♪

日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝祷(MIYUKI)
- 08:00 朝食
- 10:00 ボート乗り
- 11:30 村訪問
- 13:00 昼食(ホビ家)
- 16:00 伝統衣装&装飾
- 20:00 夕食
- 21:00 夕祷(SHUNICHI)
- 21:30 シェアリング
- 23:00 就寝

朝食後
洗濯を
していたら
近所の子が
手伝って
くれました。



干すところまでいっ
せ、てくれたのは
ミリンと
リヤエミ

ボートは手こぎでなく、エンジンがついてました。

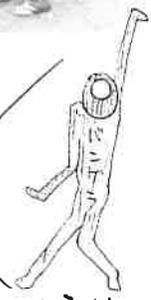
へ水はとってもキレイに見えました☆☆



カメラマン
中川
&
カメラマン
ディエ



カメラマン



いつも架みをとたえるのり子さん



何に使うのか
分かりませんでしたが
こうやって木を運ぶ子
が何人もいました。
頭の上には布を置いて
緩衝材にしています。



「ベنگル けんけん相撲ぞガチンコ勝負！」

ベトナムは学にも本気が
ウエノ
佐バシ
が勝
ピース☆



BDPのスタッフは
マジでした... (笑)
馬とびもしました。



← 転がってるのは
To橋

勝者ニケル



木を頭の上に乘せて
倒れていた子達と遊べたことが
なにより嬉しかった。

この後... すごい事件が!!
カオル → ドク →

即因は
地面にころげたと
僕にひかかって
転んだこと。

この時はBDPスタッフ
が置いて、晩ごはんは
いだけました



ここはホビエんのあつち

帰、マングイという
身体装飾と、伝統衣装の
着っけをしてもうしました。
女性は30分~1時間くらい
かかってましたが、男性は
10秒くらい。
遊びに来た子ども達も一緒に早、でもらったのです。



何層見ても
"教祖"と"中国人バイヤー"のコンビ
には見えません。



伝統服
と
リンギ



大家の娘 プロシ ↑ ヒプロテック ↑

6日目…3月14日(土)～ガロ族～

食事などに楽しみがきとする僕たちと現地スタッフは不思議

日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝禱(KAORU)
- 08:00 朝食
- 09:00 ジャマルプール出発
- 11:30 ボクシガンジ - 到着
- 12:00 BDP スクール訪問①
- 13:00 昼食
- 15:00 BDP スクール訪問②
- 16:00 国境を見に行く
- 20:00 夕食
- 21:00 夕禱(TOSHIKO)
- 22:00 就寝

アルバートからハブラシをもらった。



がっさいました。

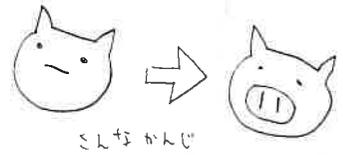
出発前に少し近所の子とコミュニケーション。地面に絵を描いて「これなーんだ？」とベンガリ語を聞いています。



トシコの技に皆はくまげけ!!

ボクシガンジに到着

ボクシガンジのこの学校のこの教室には机・椅子がありませんでした。皆、サンダルを脱いでゴザのうえなまのうで勉強していました。



この授業は英語で。学年は1年生。

A B C D
~~~~~

またしても花をもらってしまいました。



皆サッカーをするも、ボールがピンク!



私、石橋のモーツァルト-ジゴ上野選手故障。



後で寝てるのは中川さん



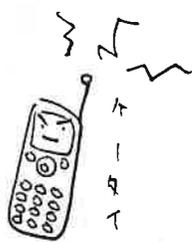
小さな川を渡ったのですが、この水... かけます人です!



カオリは体調不良、ジュニは普通に歩けないほどの痛みのため、この日2校目のガロ族地区へは学ぼうと行くことに。子どもの雰囲気も違って興味深かったです。



ガロ族の村も見せてもらいました。昔の日本を思い起こさせるような不思議な感じも受けました。家の造りが日本の伝統家屋にすごく似ていたんです。



停電の中、晩ごはん



独立記念モニュメントです。デッキをモックレス。普通に台座みたいなところに座りました... 11月のかな。

# 7日目…3月15日(日)～主の日～

## 日程表

- 08:00 起床
- 08:30 朝食
- 09:00 教会で礼拝
- 10:00 BDP&教会スクール
- 11:30 観光スポット
- 13:00 昼食
- 14:00 ボクシガンジ - 出発
- 15:00 ジャマルプール到着
- 18:00 薫は祭りへ
- 18:30 夕祷(MIYUKI)
- 19:00 夕食
- 20:00 シェアリング
- 22:00 お楽しみタイム
- 24:00 就寝

シュニ子、行きたがったガロの教会に足と踏み入れます



みなすすく  
静かに座り、  
いましたし。  
歌もいかり  
歌っていました。  
教会は子ども  
同じですね。



小学校の子ども達に歌や踊りを見てもらい、その後、ついで遊んで交流。



シュニ子用に杖と作ってくる  
現地スタッフ。  
ナターキで  
作りました。



ガロ族の伝統舞踊は  
バンガルダンスとはまた  
違ってとても素敵でした。  
イタリヒウの女の子が  
すごく上手だったのです。

痛いと言わないシュニチ

アルバートは犬が大好き。スパイス付きの肉を犬にあげます



このバシ(竹)は日本まで持ち帰りました

ちなみに、僕がアルバートの名前を覚えたのはこの日です



この笑顔でクラクション鳴らしまじ一般道で90km/h平気で出すニキル。尊敬します。



ジマールプールの祭りに僕だけ行ってきました。屋台・出店ですごくにぎわい。



このバイクで円筒状の建物の中を走る曲芸はスリリングでクールな感じが好きでした。皆報しげに抱いてく木乗がた。



このツボが、アルミで出来たと思うんですが、水を入ると結構重い！こらよびのが確かに一番楽な気がしました

最後にボクシガンジのスタッフと

モリスが会社休みの様で深夜まで歌っていました



→インコとモリス。お土産を分けて。



# 8日目…3月16日(月)～涙の別れ～

## 日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝禱(SHUNICHI)
- 08:00 朝食
- 09:00 ジャマルプール出発
- 13:30 プーバイル到着
- 14:00 昼食
- 15:00 メンディをする
- 20:00 夕食
- 21:00 夕禱(KAORU)
- 21:30 シェアリング
- 23:30 就寝

ごはんも食べたしお祈りしてすぐ出発。涙が出ます。



一番遊んだジャマルプールの近所の子ども達。



アバルデカホヘ!

74>入



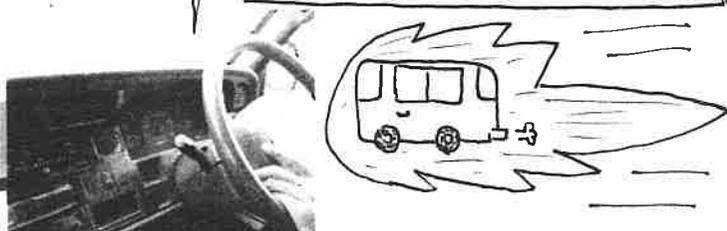
ジャマルプールのスタッフ達と。

また会えるよねー

帰りも90km/h出しますよ



ジュニキは74>入って子と仲良くなった。



多分乗ったリキシャ。前輪歪んでいます。

5分で笑顔のメンバーこのチームの良さ!!



♪ バイルぞ お昼ごはん



カオリ復活!!

#

♪ 再びメンディモルナ先生にしてみました。



中川さん...  
ヒマだったのぞ  
しょうか...

ルナ先生のメンディモ  
ルナ先生のメンディモ  
は  
細かくなると  
キナニ。  
職人技です!!



♪ バンガラデシュの人は料理に  
据置き型の包丁を使います。  
たまねぎの千切りとか職人技ですよ。  
見ていて気持ちいいほど  
スラスラ切っていました。



男の話を  
アポロにする石橋  
そんなにしぼたさ  
生地いたんじゃあ。と  
かか思っけ言わない  
優しいとし



# 9日目...3月17日(火)~ACEF ST~

## 日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝祷(TOSHIKO)
- 08:00 朝食
- 10:00 BDP スクール訪問
- 11:00 村訪問
- 13:00 昼食
- 16:30 カルチャーショー
- 20:00 夕食
- 21:00 夕祷(KAORI)
- 21:30 シェアリング
- 23:00 お楽しみタイム
- ?:?? ?就寝?

ついに最後の訪問となってしまいました。



ベンガル語からなに  
くなに平仮名でカタカナ  
よるみやま。



ベンガル語に訳して日本の絵本の  
読み聞かせをするのりまさん



クリケットにますよ!

コレって野球  
ですよね...?!

〇三三

この子  
元身いっけ...  
であわ!!

新婚さんのお家に行きました。当然男は入ませんでいた。



ミヤケちゃん。  
%前しか教えてくねなかつた。

実は彼女いやが。てました。



田んぼの向こうはバツ十園です。

建設中のBDPスタッフ養成所



司会は秋さかのり子さん!  
超司会うましたです。



釘を打たせてもらったり。  
ジョー先輩が熱心に練習する2人



4746ダンスを披露してくれたプロミン



踊りがせたらうましたアリさん



僕らはソーラン節を披露



とにかく踊り!歌う!踊り!!

近所の子どもたちも見に来てくれました。



踊り終わった後は  
バタバタでした。  
ベニガールのスタンプ  
本当すごい。

↑直立不動のぼく



かにぎり



# 10日目…3月18日(水)～最終日～

## 日程表

- 07:00 起床
- 07:10 ラジオ体操
- 07:30 朝祷(MIYUKI)
- 08:00 朝食
- 10:00 ショッピング
- 13:00 昼食
- 16:00 シェアリング・閉会礼拝
- 20:00 夕食
- 22:00 プーバイル出発
- 23:30 ダッカ空港到着

この日の朝は、  
いこか淋しさを  
感じました…



しみりした空気を感じます



「帰りたく  
ないよー」  
ミュキ

森のくまさんセット。今思えば持ってた  
良かった…



サロワカミュージーズも着慣れました

僕らの頼れるリーダー♡



デレはいつも通り歌ってます



素敵な歌を教えてくれた

【歩いて5分のマーケットへ】

デションが高いとこんなこともしてくれます。

広い空…風の通る商店街



近所の店に  
みんなが  
買い物に

(紅茶と山の  
よに買った)

↑  
ヤイが  
本当においしかった!! ☕

商店街が向こうにもあります。



アクセサリー屋さん  
←ミニティを買いました

ダイコがむちゃしてくれたので沢山買えました。

駄菓子屋さん。スタッフ20名かせ。

途中店の人が  
どこかに行ってしまい  
何枚か紙々が  
店番のあんな  
感じに...



別れの時まで時間カウントしたっけ

どこでも寝るみゆき

「ちょっと疲れたのかな...」



インガルトレです。  
ゴボ-ルですな。

こさなは  
左手



カオリがユニット折り紙を教えた。ルナ先生め、ちゃはまって黙々と作っていました。

野菜を炒めながら踊ってくれたユウのナズマシ



10分↓後



見事!!



プーバイルのスタッフ達と  
バイバイ (デカホベ)



いよいよ、帰国モードで心も服装も準備!

なんたかんだで一番世話に  
なつたマリンビート



Thank you !! コソバク!! ありがとう!!

# 1 1日目…3月19日(木)～帰国～

ダッカ空港にて

## 日程表

- 02:00 ダッカ(発)
- 07:40 香港(着)
- 09:05 香港(発)
- 14:00 成田空港(着)
- 15:00 解散



ダッカ空港では  
手荷物検査や  
出国手続きで少し  
苦勞したものの、特にトラブルも  
なく日本まで  
戻ることができました



同じ飛行機で日本に行く  
初めて日本に来る、という母子を  
のりさんが助けていました。  
すてかでした。

7L-7711-7730-7  
がさかした。



命に関わるおな  
大きな病気も  
大きなけがもなく  
日本に帰国することが  
本当に楽しかったし  
実りあるツアーだったと  
思います。

今回のスタディ・ツアーは参加者が5名と少なかった上に、全員が大学生で年齢も近く、興味や関心も共有できる部分が多かったことから、たいへん奥の深い学びの体験を共有できるスタディ・ツアーとなりました。

スタディ・ツアー初日のオリエンテーションでは、BDP ディレクターのアルバートさんから話をうかがいましたが、その際に宿題が出されました。スタディ・ツアーの日々を過ごしながら、バングラデシュと日本の共通点と相違点を見つけ、最終日の wrap-up ミーティングでシェアして欲しいというものです。参加者はみな、この課題を自分自身の課題として真摯に受けとめ、心に留めながら毎日を過ごしてくれましたので、wrap-up ミーティングでのシェアリングの場で参加者ひとりひとりが自分なりの答えを発表してくれたときには、内容の豊かなディスカッションをすることができました。

結局のところ、日本の人たちもバングラデシュの人たちも、同じ人間なのだから同じ人権を持っているし、同じように尊重されるべきなのだ、というような普遍的な価値の存在に、実感をもって気付かされるような経験をみんなはしてくれたのだと、そのディスカッションを聞きながら考えました。そしてまた、知るということの大切さをあらためて感じました。知らないということは、人を不安にさせるので、知らないものは怖い存在なのだと思います。たとえば、日本国内でバングラデシュという名前を口にすると「そんな危ない国…」という応答がしばしば返って来ますが、そう言う人たちは、往々にして、バングラデシュの状況を知り、具体的な事例を知った上で、バングラデシュは危ないという判断をしているわけではなさそうです。

今回のスタディ・ツアーの後日談のひとつに、参加者のひとりが、異文化体験をし、その中で学ぶことをした正にそのことのために、大学の先生から推薦取り消しという不利益を被るという大変不本意なことがありました。明らかに誤解をなさっているご担当の先生とお話しをさせていただきましたが、誤解をといていただくことは残念ながらできず、己の力不足を痛感しました。

バングラデシュは、いま大きな変化の中にあります。変えなくてはならないことが沢山ある国だけれど、多くのことが現実に変わりつつあります。翻ってみると、日本にも、いや日本にこそ、変えなくてはならないことはとても沢山あります。そして、人間が作り出した制度や仕組みは、人間の手で変えなければならないのだらうと思います。

## ハタオリドリとスズメ

井上儀子

BDPトレーニングセンターの建設が始まっていました。BDPはプーパイルの地に1991年より活動を始めてから18年間の間に2回事務所を移転し、新しいセンターが完成すると3回目の移転となります。最初は建物の老朽化のため中に入るのは危険とされ、移転を余儀なくされました。2回目は他NGOの一部を借りていたため、数年後に立ち退きを要求され、現在の場所に土地を借り、建物を建設しました。しかし建設費は土地所有者に出してもらったため、月々の家賃に上乘せられ、その後も更新ごとに家賃値上げで困窮していました。

バングラデシュの物価はどンドンうなぎ上りに上がる一方、スタッフ、先生方の給与を物価上昇率と同じように上げるべく、ACEFからの送金額を増やすのは、日本の不況を考えると容易なことではありません。一部の先生方、スタッフの中には、よりよい収入の職を求めてBDPを離れる人が出始めました。そのニュースを聞いた時に、私の心は何とも言えない寂しさでいっぱいになるのです。日本の経済不況のことACEFの収入が伸び悩んでいることを知っていて、これからの生活に不安を抱くのは無理もないことかもしれません。

何とかしてBDPスタッフに初期の情熱を持ち続けてもらいたい。安心して子どもたちの教育のために励んでもらいたい。…私は考えました。今、BDPの一番の願いは何なのだろうか？ それはどこの地区に行っても、「貸家ではなく自分たちの事務所が欲しい。」ということでした。特にプーパイル地区では、首都ダッカに近いことから、人口が増え、建設ラッシュが起き、年々土地は高騰し、投資のために土地を購入する人まで増えてきました。こうなったら一日でも早く土地を手に入れ、自分たちの建物を建てれば、月々の家賃を払う必要はなくなり、大きな節約になります。きちんとした建物を建てれば、研修施設として他団体の研修時に部屋を貸して収入を得ることができるかもしれません。

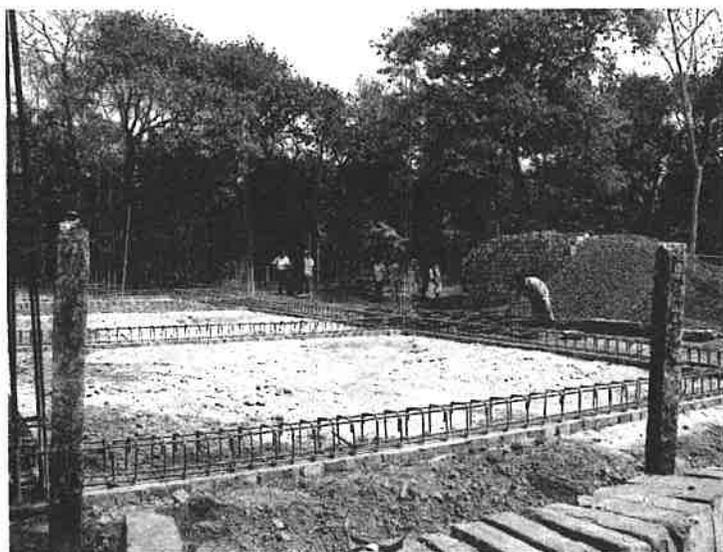
話をもちかけると、BDPのダッカスタッフは、お金があれば明日にでも土地を購入したいと大喜びです。夏のスタディーツアー帰国後すぐに、今までのスタディーツアー参加者に呼びかけました。全国のACEF会員にも呼びかけました。そして必要なお金が整えられたのです。2008年末に土地を購入し、必要な登記手続きを終え、年明けから基礎工事が始まりました。

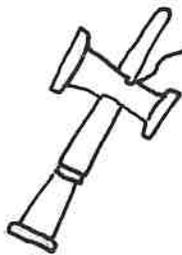
そして今回の訪問で、建設現場を見ることができたのです。BDPスタッフの喜びと希望にあふれた笑顔を忘れることができません。プーバイルスタッフはその喜びをこんなふうに語ってくれました。

「ハタオリドリとスズメ」という詩を知っていますか？ ハタオリドリはオウギヤシの木に、ナツメヤシの葉を運んできて上手に編んで巣をつくります。その巣はとても頑丈にできているのですが、葉の先にぶら下がっていて、風が吹いたり、雨が降ったりすると、揺れたり濡れたりします。それを見て、スズメがからかうのです。「やあい、君たちの生活は何て大変そうなんだ。ぼくたちの家は風が吹こうが雨が降ろうが、びくともしないよ。」スズメは人家の壁穴や屋根裏などに巣を作ります。そこでハタオリドリは答えました。「君たちの生活は楽かもしれないけれど、いつ追い出されるかわからないじゃないか。ぼくたちの家は借家ではなく、自分たちの持家だから安心だよ。」

これは小学校 3 年生の国語の教科書に載っている詩だそうです。この詩を私に説明してくれる間、プーバイルスタッフの顔はみんな輝いていました。自分たちの事務所ができるのが嬉しくないはずはありません。

この 18 年間、BDPの活動には様々な苦労がありました。これからも困難は続くことでしょうが、ハタオリドリのように持家になるのですから、今まで以上に一層BDP寺子屋小学校の子どもたちのために尽くして欲しいと願います。そして日本にいる私たちは、そのことを忘れずに応援し続けていきたいと切に願います。





## 本当に「いきる」ということ

青山学院大学 上野 峻一

神さまが一つひとつ大切に選んで、この地上に与えた命は、どんな小さな命でも、どんな場所にあっても、奇跡であり、真実であり、神さまの大きな恵みである。僕は今回の ACEF のスタディツアーを通して、バングラデシュという国で、ほんの少しその事実を知ることができたと思う。そして、僕達はこの10日間で、それぞれ今まで経験したことのない生を経験した。それは、本当に「いきる」ということだった。

今回、僕は同じ教育学科で、入学時からの大切な友人（石橋 薫）を誘って、このスタディツアーに参加した。もちろん、いろいろと一人で参加するのが不安ということもあったが、キリスト者でない彼にキリスト教を知ってほしかったし、彼の子どもを想う気持ちはきっと国際的に通用すると思ったからだ。そして、その予想は見事に当たった。



僕は最初の3～4日間で本当に辛かった…。それは、食事や生活様式への適応ということもあったが、何よりも自分の「罪」に気づいたからだ。僕は最初、心からの笑みと愛をもってバングラデシュの子ども達と関わるができなかった。言葉や文化が違って上手くコミュニケーションできなかったこともあるが、何よりも僕の中にあつた「違い」という壁が、日本で関わる子ども達と同じように彼らと関われなかった。けれども、

薫くんは、そんなことはまったく問題にせず、子どもと遊んだし突っ込んでいた。僕は、彼が本当に羨ましかった。そして、そんな無力な自分を変えたくて、本気で神に祈った。

このスタディツアーの特徴の一つは、毎朝夕に御言葉に聴き、祈り、賛美をする時間があることだ。これは、他のどのスタディツアーにもない魅力である。なぜなら、立ち返るべき指針が与えられているからだ。人間は時々、行く先が見えなくなってしまうものである。特にこのような環境においては、その可能性は尚更大きい。しかし、この朝禱晩禱の時は、僕達の歩みを再確認させてくれた大切な時であったと思う。そして、僕は祈りと聖書のメッセージ、シェアリング…その一つひとつを通して変えられていった。





僕達のシェアリングの中心は、子ども達  
の話題であった。もしかしたら、僕達の話  
題は「学問的に日本とバングラデシュの生  
活水準を比較考査して、教育的効用による  
社会構造のあり方を考える」とか、そんな  
ことの第一歩だったかもしれないが、机の  
上の議論みたいなことよりも僕達は子ども  
と本気で遊んで関わって、思いっきり笑っ

て笑わして、全身全力で思いっきり「いきた」。そのことが僕達のシェアリングだった。

もちろん、子ども達以外にも、向こうでACEFと協働しているBDPのスタッフに対しても同様であった。BDPのスタッフが本当に歓迎してくれるので、僕達も本気で歓迎されたし、負けないぐらいに向こうのスタッフを笑わせた。きっと何とも変な日本の大学生達であると思ったと思うが、自分達には何もできないのは初めから分かっていた。だからこそ、精一杯楽しんだし、涙が出るほど真剣に考えて感じて過ごした。

BDPのスタッフは、子どものことを考えつつも、実は自分たちも子どもで、でも何よりも子ども達の幸せを願って、本気で平和を願って、祈って、めっちゃめっちゃ考えて、それを行動にしている。僕には、そのことがすごく伝わってきた。

ただ、やはり納得できていないというか、スッ  
キリしない部分もあった。それは僕達が見ていな  
いバングラデシュの姿や、直接関われない事実、  
また関わってはいけない問題、きっとたくさんあ  
る。当然なのだが、それは心残りでもあり、次に  
繋がる一歩でもあった。僕達は事実として比較的  
裕福な面のバングラデシュを見ていた。しかし、  
バングラデシュで学んだことは、本当に大きな意味をもった。世界観を変えてしまった。  
僕達は日本にいても、彼らと共にこの地球で生きている。それなら…さあ、どうする？



「いきる」とは、「生」と「活」との意味を含んでいる。生活とは、毎日を生き活き  
生きることなのだろう。日本での生活は、果たして本当に「いきて」いるのだろうか。  
僕には大きな疑問が残った。今まで本気で生きてきたつもりだった。けれども、バング  
ラデシュで経験した「いきる」こと、真剣に神さまから与えられた命を「いきる」こと、  
これから日本でバングラデシュのことを想い生き続ける僕は、ずっとこの答えを探さな  
くてはならないだろう。そして、それは日々の祈りと御言葉と共にある生でありたい。



Good!!  
Team Member!

# 僕を見た Bangladesh

青山学院大学

石橋 薫



スタディツアーという名前のツアーで Bangladesh に行かせていただき、いつも「いいのかなあ」と引け目を感じてしまうほどの歓迎を現地のスタッフや人々から受け、衣食住を心配することもなく本当に楽しませてもらった。とにかく楽しかった、というのが今回のツアーの感想である。

そして、充実していた。久しく感情を揺り動かされたし、色々なものを見聞きし、かけがえない時間を過ごさせていただいた。10日やそこらで Bangladesh に関して知れたことと言えはたかが知れていると思うが、私の触れた範囲で Bangladesh を経験知として知ることができた事は意義のあることだと思っている。

私の見た限りでは、「貧困」という言葉の持つイメージを滞在中感じることはなかった。それは、我々の過ごした10日間は Bangladesh の人々からすると水準の高い生活であったからに違いない。結局、我々は10日間 Bangladesh で「お客様」として過ごしたにすぎない、という意識は私の中からぬぐいきれない。





言い方の問題なのかもしれないが、私にはそうとしか表現できないのである。

私はバングラデシュに着いて2日目に、物乞いをする子供にデパートの前で裾を引かれた。今思い出しても感情が高ぶってしまうほどの光景を私は目の当たりにした。にも関わらず、滞在中私は出された料理を何の抵抗もなくパクパクとおいしいおいしいと食べていたのだ。この事実がある以上は、私の意識はぬぐえないだろうと思うのである。

だからと言って、滞在中暗い気持ちでいても仕方がなかったのもまた事実である。私の気持ちや態度がどうあろうと、私はバングラデシュでは何も出来なかったのだから。その時の私は深く考えていなかったが、今考えれば自然とそういった選択をしていたのかもしれない。自分はお客様だと開き直ってしまうことで、多くを学ぼうと自然と体が働いたのかもしれない。日頃から心がけている、後悔のないように行動することはバングラデシュでも貫いたつもりである。

バングラデシュに行って、印象に残ったことがいくつかある。

まず、前述した物乞いの少女の表情。2人の少女に出会ったが、私はあの表情は忘れられないだろうと思う。祭に行った時に出会った少女には10タカを渡せたのだが、その時に見せた笑顔も忘れられない。今も時々、彼女たちの目にはこの世界ほどのように映っていたのだろうか、と思うのだ。



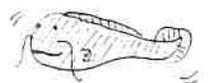
もう一つは、訪問先の学校の先生の感謝を表す言葉「ドンノバット」。私の手を両手で握って言ってくれたのだが、正直その時私は何故こんなに感極まった表情で感謝の意を表されたのか分からなかった。

後から現地スタッフから聞かされて分かったのだが、私とメンバーの上野が授業中に教室にお邪魔して子どもと関わっていた時に行ったパフォーマンスに対する感謝だったそうだ。私達は、テキストに日本の食事風景が挿絵つきで紹介されていたので、そこらに落ちていた竹の棒で箸を作り、「いただきます」から食事のマネごとをしたのだ。先生としては、テキスト上でしか知りえないことを、日本人がやってきてしてくれたことに大きな意義を感じたのだろう、とのことだった。それを聞いて私は、先生の教育に対する熱意に感銘を受けたのである。



バングラデシュに行って、「どの世界でも人はそれなりに生きている」という私の結論が見えるようになった。そこに文化の相違や、経済という名のモノの差はあるものの、悩んだり苦しまないで生きている人間はいないということを経験的に理解できたように思う。彼らは彼らなりに、彼らの文化の中でより善く生きようと、生きていた。

私たちも、私たちの文化の中で、私たちなりにより善く生きればいいのではなかろうか。そう思えるようになったのである。



「考えるのは帰国してからでも出来るから、楽しんできてね！」

スタディツアー準備会の際に、以前 ST に参加した方からこんなアドバイスを頂いた。そのほかにも、ACEF の ST を紹介してくれた友達も、「バングラデシュ、超楽しいよ！」と言っていたし、このツアーを勧めてくれた先生も「ご飯がね、美味しいんだよ。」と言っていたり。さらに ACEF の ST の目的は、「自分を見つめる」ということ。私が以前、フィリピンにツアーに行った際、周りの人が「がんばってね！」と送り出して下さったが、結局私に出来ることなんて皆無で、正直もうスタディツアーと称されているものに参加する気はなかった。しかし、ACEF の ST はなにやら様子が違うぞ。そう感じたのが、私がこの ST に参加するきっかけになった。

バングラデシュから帰国して1ヶ月近く経ったが、アメリカナイズならぬ、バングラナイズされている自分がある。ST に行く前は「どうして皆、「途上国」と呼ばれる国に ST に行くと楽しい、と言えるんだろう」と思っていた。しかし、バングラデシュから帰ってきて振り返ってみると、その「楽しさ」が何であるか、わかるような気がした。ここでは、その「楽しさ」が何であったのか、振り返ってみたいと思う。

まず、つまりバングラデシュの文化の豊かさに触れ、「新しい発見」が出来たということがとても楽しかった。行く前は、バングラデシュに対して「世界の最貧国」とか、「途上国」というイメージしか無かった。しかし、そんなイメージは、外からただ貼り付けたものであって、実際にはバングラデシュの文化の豊かさに驚いた。食事をはじめ、子どもたちの遊びも実に多彩だった。私が特に驚いたのはバングラデシュの歌と踊りであった。まさに老若男女、皆いたるところで歌い始めたり、また踊り始めたり・・・最初は驚いたが、実際に一緒に踊ったり歌ったりすると、バイタリティーが伝わってきたし、純粋に「楽しむ」ことが出来た。バングラデシュは物質的、資源的に困窮している部分は確かにあった。しかし、バングラデシュの文化に実際に触れて、そのバイタリティー溢れる文化に圧倒された。このように、私の中でバングラデシュに対する「新たな発見」があり、今まで持っていたイメージが覆されたこと、その大きな出来事にとても興奮したし、本当の意味で楽しめたと思う。

ふたつ目に、新しい関係が生まれたこと。これがこの ST が楽しい！と思える理由だと思う。バングラデシュに行く前まで、ACEF の会員にはなってみたものの、「援助」というものに対してシニカルだった。「援助なんて、私がしても結局どこに使われるのかわからないんだから。」、と思っていたからだ。しかし、この ST で、実際に BDP のスタッフと会い、さらには BDP スクールで目をキラキラさせて学んでいる子どもたちを見て、「この友人たちのために、何かをしたい」と思った。また、BDP のスタッフと交わる中で、「バングラデシュはまだ国を作っている途上だ。だから教育が非常に

重要なんだ。」という言葉聞いて、私はすごく心を動かされた。「この人たちは、”希望”を持って、この活動を全身全霊をかけてやっているんだ…！」と、思ったからだ。さらに、BDPのスタッフをはじめ、バングラの人たちは、STの10日間、私たちのために自分の時間を犠牲にして最高のもてなしをしてくださった。最初は、「私たちは何も出来ないのに、どうしてここまでしてくれるんだろう」と思ったが、そこにも彼らが「ACEFのメンバーと共働してバングラデシュを作るんだ！」という「希望」を持っているからこそ、自分の時間を割いてまで私たちのSTをオーガナイズしてくれているんだ、と思った。その時、初めてACEFとBDPの「共働」という言葉が、私の中で現実味を帯びたものとなった。そして「STであった人を応援したい。」と、いう思いが与えられた。私がバングラデシュで得た「新しい関係性」、それはバングラデシュでの経験、そして帰国してからの「希望」となり、「楽しみ」となった。

三つめに、「新しいものの見方」を得た、と言うことが、このSTを楽しむことが出来た理由だと思う。実際にバングラデシュに行って、現地の人と会って話を聞くことも自分が今まで持っていた視点を覆されるものであった。さらに、STのメンバーとの礼拝やシェアリングの時間を通して、新たな視点というものが与えられた。「新しいものの見方」や「視点」の中身を問われると困ってしまうが、しかし確実に、バングラデシュに行く前とは異なった視点で、私は今バングラデシュを見ている。言うなれば、傍観者だった立場から、参加者になった、という感じだ。このSTが楽しかったのは、このメンバーでじっくり話し合う時間があつたし、そしてこのメンバーでたくさんのことを共有しながら、互いの視点を「シェア」することが出来たからだろう、と思っている。

このような「新しい」ものをバングラデシュSTで得て帰ってきた。そして、やはり私も以前のSTに参加した人々と同じように、「バングラデシュ、とっても楽しいよ！」と友達に言う立場となった。そして、これからこの体験を「考え」続け、さらにまたバングラデシュに行き、また新たな収穫を得たいと思う。

最後になりましたが、このツアーを支えてくださった皆様に心から感謝します。ありがとうございました。



バングラデシュから帰国して、早くも1ヶ月が経とうとしています。もちろん信じられませんし、感覚的にはまだ戻れていないのではないかと…と思うほどに、今回のスタディツアーは私の中で強い余韻を残しています。この10日間は、日本での生活様式、人間関係、サークルの仕事や練習、情報など、普段私を取り巻くもの全てから一度解き放たれて、素になって過ごせた日々でした。一度真っ裸になることで、様々なことを再考できたのではないかと思います。

ツアーに参加するまで、私がバングラデシュに持っていたイメージといえば、「貧困」と「自然災害」くらいのものでした。ですから、私は心のどこかで、バングラデシュは日本よりも「不幸」であり、施しの対象でしかないと感じていたように思います。しかし、到着後すぐに、バングラデシュの豊かさに気がつきました。もちろん、物質面では日本よりもずっとずっと貧しく、水にも電気にも思ったようにはアクセスできません。しかし、豊かだと錯覚できる物質に乏しいからこそ、バングラデシュには物質ぬきでも楽しむ力を持っている人が多いように感じました。私は施すどころか、この10日間、赤ん坊のように施されてばかりでした。

本当に行くところ全てで寛大なもてなしを受けましたが、その中でもスラムでのもてなしが印象に残っています。スラムの寺子屋を訪ねた際、1人の女の子の家にお邪魔させて頂きました。家といっても、簡易ベッドがギリギリ入るくらいのドアもない狭いスペースに、女の子、お兄ちゃん、お母さんの3人が暮らしていて、そのベッドらしきものは、椅子・食卓・寝床のすべてを兼ねているようでした。招かれた私たちはベッドに腰をかけ、女の子が何かを必死でお母さんに伝えようとしているのを見ました。すると、お母さんがひざまずいて、ベッドの奥の方へ入っていき、何かを取り出しました。小さな白いお皿に乗った数枚のクッキーでした。女の子は瞳をキラキラさせながら、「食べて! 食べて!」と言っています。私たちは皆1枚ずつ頂きました。どこにでもある美味しいクッキーでした。少しお話をしてから失礼して、寺子屋に戻りました。すると、先ほどの女の子が走ってきて、また瞳をキラキラさせながら、小さなガラスでできた綺麗な花瓶を私にくれました。どこにでもあるガラクタでした。でも、彼女にとってはクッキーも花瓶もとても貴重なものだったのだと思います。というのも、彼女の家庭は毎日自由におやつが食べられるほど裕福には見えませんでしたし、他におもちやがたくさんある家にも見えなかったからです。どちらも、彼女の少ない所有物の1つだったのだと思います。彼女は、会って間もない、よく分からない外国人の私たちにできる範囲の最高のもてなしをしてくれたのでした。私は心を打たれて、ただただ嬉しかったのを覚えています。満たされた気持ちで車に戻りま

した。すると、BDPのスタッフが「スラムで何か物に触れた人は全員手を洗うように」と言って水をくれました。私はまるで頭を石でガンと殴られたような気持ちになりました。もちろん、衛生上の理由で仕方がないのは分かっています。ただ、私にはその手を洗うという行為が、女の子の好意と最高のもてなしをも洗い落とすような気がして、やるせなかったのです。彼女はあんなに手を差しだしてくれていたのに、それに触れた私は手を洗わなければいけない。彼女との間の見えない厚い壁、ギャップ、スラムの現実を見せつけられた気がして、私はただただ悔しくて、自分は一体何様なのだろうという怒りでいっぱいになりました。

いつか、絶対に、もてなしに100%応えられる自分になる。と誓った瞬間でもありました。

あっという間に過ぎた10日間でしたが、この短い期間は、私がバングラデシュを大好きになるには十分すぎるほど強烈で幸せで濃い時間でした。思い出した瞬間にニヤけますし、私が死ぬときに発表する「幸せでしたメモリーベスト5」に間違いなく入ります。このツアーにおける全ての出会い、気づきに感謝致します。「学び」のスタートラインを踏めたことを感謝致します。BDPのスタッフ、ACEFのスタッフ、メンバーをはじめとする、このツアーに関わった全ての方々にお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

シェアリングでの私の心情を見事に一言で言い表した、アルバートさんの言葉で締めくくりたいと思います。

**It doesn't hurt to share.** (分かち合うことは痛みを伴わない。)



## ACEF Study Tour に参加して

戸部 佳織

まず、私が ACEF のスタディーツアーの存在を知ったのは 1 年生のときの C-week です。学内でポスターを見て、その後 open house で木部先生のお宅にお邪魔した際に少しお話を聞きました。もともとバングラデシュに興味・関心はあったのですが、なかなか訪れる機会がありませんでした。バングラデシュにいつから興味を抱いたのか、はっきりは覚えていません。もともと子どもに興味がありました。バングラデシュはストリートチルドレンや児童労働といった問題を通して知ったのだと思います。中学生のとき出会った『僕たちは、自由だ!』という本も大きな一因です。イクバルのような子どもの為になにかしたい、という想いで動き出したのも中学生の頃です。それが今、こうしてバングラデシュに訪れることができた、というのは大きな喜びでもありました。

参加して、ありきたりな言葉になりますが本当に多くのことを学びました。個人的には辛いときもありましたが、とても充実した 10 日間を過ごせたと思います。Sharing では新たな見方を学びました。辛いこともありましたが、みんなの意見や想いを聴く時間が与えられたことはとても重要であったと思います。バックグラウンドが異なり、考え方、見方、感じ方の異なる人々と過ごす 10 日間がこんなにも貴重だなんて参加しなければ実感できなかったと思います。中川さん、のりこさんの存在もとても大きかったです。本当に感謝でいっぱいです。

私ははじめてこういった場で体調を崩しました。本当に何が起きているのかわからなかったし、どうしたらいいのかもわ

かりませんでした。ただ自分の体が思うようにいかなかったのが本当に辛かったです。しかも後半、みんなの話していることの多くが知らないことや経験できなかったことで、なんだかうまく表現できませんが、とにかく悔しくてしかたがなかったです。そんな中で私が考えていたのは Albert からの課題。バングラと日本の共通点を見つけること。初日に車の中で話した staff が私に「human being である」という identity を持っていることを話してくれました。その後にムスリムなのだと。人間であること、これは誰もが共通することです。人としてこの世に生まれた限り、みなが持ちうる権利が存在します。それが人権ではないでしょうか。生きる権利は皆平等であるはずなので、平等に与えられない世の中。これが共通点であるのになぜだろう。Albert は私たちにみなが一等車に乗ることが可能だと話してくれました。折衷案ではなく、よりよい社会を目指すことができるのだ、これは私がスタディーツアーに参加して実感したことです。

悔しくて泣いたりしたことも多い中で、私はたくさんのことを学びました。特に後半で述べたことは私にとって重要です。人が人として生まれたからには生来持ちうる権利。これはお互いに尊重しなければなりません。また、みなでより前向きな社会をめざすこと、これが私たちにできることなのではないかと思うのです。

たくさんの方の支えで過ごすことができました、本当にありがとうございました。

| 第36回(2009年春)ACEFスタディーツアー参加者名簿 |        |    |                   |        |
|-------------------------------|--------|----|-------------------|--------|
|                               | 氏名     | 性別 | 所属                | 教会     |
| 1                             | 上野 峻一  | M  | 青山学院大学<br>教育学専攻3年 | 自由が丘教会 |
| 2                             | 石橋 薫   | M  | 青山学院大学<br>教育学科3年  |        |
| 3                             | 藤本 淑子  | F  | ICU<br>社会科学科3年    |        |
| 4                             | 戸部 佳織  | F  | ICU<br>社会科学科2年    | 相模原教会  |
| 5                             | 野津 美由紀 | F  | ICU<br>国際関係学科2年   |        |
| 6                             | 中川 英明  | M  | ACEF事務局長          | ICU教会  |
| 7                             | 井上 儀子  | F  | ACEF事務局           | 浦和東教会  |





## Bangladesh に寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。

# ACEF



### 会員募集

|      |       |         |
|------|-------|---------|
| 個人会員 | 年額 1口 | 5,000円  |
| 団体会員 | 年額 1口 | 50,000円 |
| 学生会員 | 年額 1口 | 2,000円  |
| 一時寄付 | 随時    | 金額自由    |

郵便振替 00100-0-185540

特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: acef@acef.or.jp

http://www.acef.or.jp